

ふなから



目 次

- | | |
|---|-----------------------------|
| 1. 同窓会会長挨拶（黒崎浩巳） …………… 2 | 9. 実践社会学薬学の開講 …………… 12 |
| 2. 同窓会新聞－学部長挨拶（武田健） …… 3 | 10. 薬学部同窓会 …………… 13 |
| 3. 同窓会総会案内 …………… 4 | 11. 薬学部同窓会と個人情報保護法 …………… 14 |
| 4. 会計報告 …………… 5 | 12. 同窓会名簿発行に当たってのお願い …… 15 |
| 5. 同窓会の会則の変更 …………… 6 | 13. 住所未確認者に関してのお願い …………… 16 |
| 6. 東京理科大学薬学部での35年間を振り返って
（浅部喜博） …… 9 | 14. 薬科大学・薬学部同窓会連絡協議会 …… 23 |
| 7. 着任に当たって …………… 10 | 15. 会費納入のお願い …………… 23 |
| 8. ホームページのリニューアル …………… 11 | 17. 同窓会幹事一覧 …………… 24 |
| | 18. 編集後記 …………… 24 |

同窓会会長挨拶

東京理科大学薬学部同窓会会長 黒崎 浩巳



薬学部同窓会の皆さんには、如何お過ごしでしょうか？

毎日の新聞・テレビ等の報道には暗いニュースばかりで気が滅入りますが、何とか自分自身で明るい目標を持って楽しく過ごしたいものです。

海外での最近の話題では、竹島に絡んだ韓国、教科書問題・尖閣列島・経済水域・靖国神社・国連常任理事国入りでの北京・上海等での反日デモと日本大使館などの破壊行動等に絡む中国との問題が報道されており、更に北朝鮮との拉致問題は未解決のままです。

国内では、小泉内閣は国民が最も関心持っている年金改革や教育問題よりも優先して郵政民営化に取り組んでいますが、政府と自民党との折り合いがつかず、今後の進展が気懸りな状況です。他にも地球温暖化に関係する環境問題、耳を塞ぎたくなるような凶悪犯罪、そう遠くないと言われる東海・東南海・東京直下地震の発生などが心配されています。

我々薬学・薬剤師が、永い間関心を持って成り行きを見ていた薬学教育6年制は、昨年国会を通過し、来年度から新入生が入学してきます。各大学では、このためのカリキュラム作成や施設設備の準備等は、ほぼ終了しているようです。

さて、我々の同窓会は、創設以来試行錯誤を繰り返しながら一本立ちを図って参りましたが、ここ数年間は経済的問題で困窮しております。つまり、同窓会会報の発行などの活動費は一定額を支出しているのに対して、会費納入会員の加入者数の伸び悩みで会費収入が改善されないことです。そこで、昨年の総会で当初の入会費制度を年会費制に規定を改める対策を講じましたが、特に若い会員の方の加入が期待どおりに増加しておりません。

会費納入会員増を図ろうと幹事会で検討中ですが、その内の一つに各年度の同期会開催を推奨支援し、そこで同窓会入会への勧誘を考えています。

同期会の開催準備としての手順や名簿の用意などの面で同窓会が幹事の方のお手伝いをしてあげることで開催しやすくしようということです。

又、地方で徐々に育ってきている理大薬学部同窓生達の研修会や勉強会等の活動を支援していくこと、例えばテーマに適する講師を選出してあげる事などで、同窓会の存在価値を認識して頂くということです。今後薬剤師として勉強していかねばならない時代ですので、このような機会が増えていくことへの対応の一つです。

今後も会費納入会員増対策を継続して進めて、経済的安定化を図って参ります。

では、ここ1年間の同窓会の活動と今後の計画についてご報告します。

・「実践社会薬学講座」は、昨年（9年目）も野田校舎で5月15日より6月26日までの7日間開催致しました。遠方まで出かけて講師を担当して頂いた同窓生の方々には、いつもながら心よりお礼申し上げます。今年も5月14日～6月25日まで開催します。

・同窓会会報「ふなかわら」は、昨年も例年どうり6月に発行してお届け致しました。

・同窓会ホームページは、デザインを一新し、内容も豊富にして作成致しました。今後は、定期的に改定更新していくことにしておりますし、同窓生の方々に参考になる情報の提供をと考えています。

・「2005年度同窓会員名簿」は、今年末作成に向けて準備を進めています。今度の名簿は従来の冊子ではなく、価格的に安いCD-ROM形式にすることにしています。又、今年4月から「個人情報保護法」が施行されましたので、この法に抵触しないように配慮して作成致します。皆さんのご理解とご協力をお願い致します。

・昨年の総会で会則の一部変更を提案し、承認を得ました。変更点は、「事務局が野田の薬学部に移ったことによるもの」と、薬学部・大学院を卒

業した者を「正会員」としていましたが、会費を納めた者を「正会員」とし、それ以外の者を「会員」と分けました。又、役員の中に「顧問」を設け、同窓会の役員を永年勤め、同窓会に功労のあった人で且つ幹事会で推薦し、総会で承認された人をお願いすることに致しました。

・「第20回薬学講座」が10月23日に開催されましたので、この講座を共催しました。

・又、今年3月30日に「全国薬学部・薬科大学同窓会連絡協議会」の設立準備会が、昭和大学薬学部同窓会が事務局となって有明ワシントンホテルで開催されましたので、出席致しました。関東の8大学の薬学同窓会関係者が集まり意見・情報交換をしましたが、正式な第1回の会合を10月10日に広島市で開催することになりました。我が同窓会も懸案の課題解決の参考情報が得られることが期待されますので、参加する予定です。

さて、これから10年足らず先には、6年制教育を受けた薬剤師が社会に進出してきます。彼らは、今までの4年制大学卒業の薬剤師と一緒に職場で働くことになります。当初は、職場での経験の差がありますので、薬剤師としての実力は容易には逆転されることは無いと思いますが、うかうかしていると追い越される恐れがあることでしょ

う。そうならないためには、絶えず勉強を怠らないことです。時には卒後研修を受けることも必要でしょう。この卒後研修を同窓会が計画し、実施して同窓生のお役に立つようにすることも同窓会の役割の一つと考えます。在学生には、「実践社会薬学講座」を提供しているように、卒後の同窓生には、卒後教育としての研修会を開催する。このような活動が同窓会として求められる活動の一つではないでしょうか。

今年の同窓会総会は、7月23日(土)を予定しております。特別企画として「理大薬学部の6年制教育への取り組み(仮題)」を計画しております。どうぞ多数の方々のご参加をお待ちしております。

最後になりましたが、薬学部同窓会の発展のために会員皆様のご協力をお願いして挨拶と致します。



同窓会新聞—学部長挨拶

武田 健

薬学部が都心の神楽坂から緑豊かな野田地区に移転し2年が経ちました。教職員一同新しいキャンパスに慣れ、薬学部発展のため教育研究活動に励んでいるところです。そこへ薬学教育修業年限延長という次の大波がやってきました。

昨年2月に中央教育審議会から「薬学教育の改善・充実について」という答申が発表されました。「近年の医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用や薬害の防止といった社会要請に応えるため、薬剤師の養成を目的とする薬学教育については、学部教育を4年から6年に延長することが適当である。他方、現在、薬学教育においては、薬剤師養成のみならず、薬学に関する

研究、製薬企業における研究・開発・医療情報提供、衛生行政など、多様な分野に進む人材を育成している。特に薬学研究においては世界的にも高い評価を得ている。このため、薬学系の基礎教育を行う現行の修業年限4年制の学部・学科を存置することも併せて認めることが適当である」という内容で、それを受け、学校教育法が改正され、平成16年5月に施行されました。そこで本学では、現行の薬学科と製薬学科を改組し、高度な薬剤師養成に重点をおいた“薬学科”(入学定員80名)と創薬関連の研究者及び技術者の育成に重点をおいた“創薬生命科学科”(100名)を併置することになりました。薬学科は6年制であり、創薬生命学

科はいわゆる“4+2年制”です。すなわち平成29年度までの入学者は修士課程を修了し、不足している医療薬学系科目や実務実習などの単位を追加で取得すれば、薬剤師国家試験を受験することが可能となる制度です。以下、薬学科と創薬生命科学科の概要を評議委員会に提出された資料をもとに紹介します。

薬学科は「ヒューマニズムと研究心にあふれる高度な薬剤師の養成」を目的にして、生命の尊厳と患者の苦しみを知る人間性を培うとともに、国民の健康と福祉を守るうえで、重要とされる医薬品の安全使用や医療過誤を防ぐ適切な能力を養います。また医薬品の投与法、安定性、作用発現機構、体内動態など薬剤師の職能の基盤となるサイエンスを学習するとともに関連技術を習得し、更に薬物療法を向上させるための研究を行ないます。

一方、創薬生命科学科は薬学の総合的な発展という見地から、「先端医療を支える薬学研究者の育成」を図ることを目的に、生命を尊び、患者の心理状態などを理解するとともに、生命活動を支える生体反応、疾病の機構などを学びます。更に新規薬物を創製するのに必要な合成法、分子設計法、医薬品の構造および物性、医薬品の生体内動態、作用機構などに関し学習するとともに関連する技術の習得を目指し、創薬・生命科学に関する研究を行ないます。

両学科は、互いに緊密な連携を保ちながら、医療薬学と創薬科学を含む総合ライフサイエンスとしての薬学を担う人材を育成、及び人類の健康保持と疾病の克服に有用な人材育成にあたります。

両学科の共通基本概念としては、“ファーマコインフォマティクス（クスリの作用に関する総合情報科学）を展開する”ことであり、将来より良い医療を構築し、新規医薬品の創製を行うにはどうしたらよいかを生命とクスリの間を総合的に見地から俯瞰して薬学の発展を図ります。

以上の教育理念、教育目標を達成するために、既に野田キャンパス内にゲノム創薬研究センター、創薬情報科学センター、DDS（薬物送達システム）研究センターなどが設立され、ファーマコインフォマティクスの中核的拠点として活動を始めており、成果を挙げつつあります。また医療薬学、情報薬学の教育研究体制を強化するため、医療薬学教育研究センターが設置されており、学外医療機関や地域薬剤師会と連携しながら、医療現場のニーズに即した新しい医療薬学を発展させる拠点として活動を始めています。これから先、実践的な薬剤師職能教育を実施し、更に上述の教育研究を推進していくためには、必要な施設の建設と病院や薬局等医療機関との密接な連携が不可欠となります。それらを実現するため、今後一層の努力をしていきたいと思っています。

野田移転後も学外でご活躍の卒業生の皆様には実践社会薬学、医療薬学など講義や実習、研究など様々なところで多大なご協力を戴いており感謝申し上げます。明治以来の薬学教育の大改革のこの時期に、理科大学薬学部発展のため、今後とも皆様のご理解とご協力、ご支援を心からお願いする次第です。



同窓会総会案内

来る7月23日(土)、神楽坂11号館（旧薬学部5号館とガソリンスタンドの間の白い校舎）地下2階の1101教室において平成17年度の同窓会総会が開催されます。特別講演は千葉大学（大学院 薬学研究院 高齢者薬剤学研究室）の上野 光一教授による「性差医療と薬物代謝」についてご講演をいただくことになっております。又、同時に特別企画として「理大薬学部の6年制教育への取り組み

(仮題)」を計画しております。

総会の詳細は同封の案内状をご覧ください、多くの方のご出席をお待ちしております。



2003年度会計報告

2003年4月1日～2004年3月31日

東京理科大学薬学部同窓会

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	543,000	人件費	216,400
預金(普通、定期)利息	52,611	電話代	64,771
懇親会参加費	320,000	諸案内状印刷発送費	553,550
資産より繰り入れ	852,763	郵便代	97,721
		実践社会薬学打ち上げ援助	156,000
		卒業謝恩会寄付	50,000
		同期会協賛金	0
		文具・事務経費	146,922
		記念植樹	4,420
		懇親会費	370,000
		予備費	108,590
合計	1,768,374	合計	1,768,374

前年度繰越金	21,130,964
今年度残高	-852,763
次年度へ繰越	20,278,201

資産内訳	
定期預金(UFJ)	10,000,000
郵便定額預金	8,000,000
郵便局振替口座	394,040
普通預貯金	1,342,341
現金	541,820
計	¥20,278,201

以上の通り会計報告いたします

平成16年 7月 12日

会計 岡宮 智子 

監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

平成16年 7月 19日

会計監査 降矢 美智子 

高井 幸恵 

2004年度予算案

2004年4月1日～2005年3月31日

東京理科大学薬学部同窓会

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	700,000	人件費	360,000
預金利息(普通、定期)	1,600	電話代	60,000
資産より繰り入れ	1,548,400	諸案内状印刷発送費	680,000
		郵便代(切手、はがき、後納)	100,000
		実践社会薬学打ち上げ援助	150,000
		卒業謝恩会寄付	50,000
		同期会協賛金	90,000
		文具・事務経費	150,000
		記念植樹	100,000
		ホームページ	410,000
		予備費	100,000
合計	2,250,000	合計	2,250,000

同窓会の会則の変更

昨年の総会で会則の一部変更を提案し、承認を得ました。変更された主な内容は以下の通りです。

- ①薬学部が野田に移転したことに伴う事務所の所在地の変更
- ②会員の構成の細分化
会費を納めた者を「正会員」とし、それ以外の

者を「会員」に分けました。

③役員の追加

役員の中に「顧問」を設け、同窓会の役員を永年勤め、同窓会に功労のあった人で且つ幹事会で推薦し、総会で承認された人をお願いすることになりました。

東京理科大学薬学部同窓会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は東京理科大学薬学部同窓会と称する。

(事務所の所在地)

第2条 本会は事務所を千葉県野田市山崎2641番地 東京理科大学薬学部におく。

(目的)

第3条 本会は会員相互の親睦を厚くし、会員の教養、学識及び職能の向上を図るとともに、東京理科大学薬学部の教育及び研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は上記の目的達成のため次の事業を行う。

1. 本会の目的遂行のため必要な印刷物の発

行

2. 研究会、講演会、その他各種集会の開催
3. その他、本会の目的を達成するために必要な事業

第2章 会員

(会員の資格)

第5条 本会は次の会員をもって構成する。

1. 会員 東京理科大学薬学部卒業生及び大学院修了者
2. 正会員 会員のうち会費を納めたもの
3. 準会員 本学薬学部在籍する学生
4. 特別会員 本学薬学部現及び元職員及び本学薬学部出身者以外で本会の目的に賛同され、幹事会で承認されたもの(但し、正会員であるものは除く)

(会員の義務及び権利)

第6条 会員は会則第3条の趣旨にのっとり、会長その他の要請に応じ本会の事業に協力しなければならない。

2. 会員は本会において定める年会費もしくは終身会費を納めなければならない。
3. 会員は氏名、住所、職業など身上に異動を生じた時には、遅滞なく事務局に報告しなければならない。
4. 年会費を納めた会員は本会の事業に参加することができる。

第3章 役員

(役員の種類)

第7条 本会には次の役員をおく

会長1名 幹事会に於いて正会員の中より推薦し、総会の承認を得るものとする。

副会長4名 会長が正会員より推薦し、総会の承認を得るものとする。

顧問 同窓会の役員を永年務め、同窓会に功労のあった人を常任幹事会で推薦し、総会の承認を得るものとする。

常任幹事数名 幹事より互選する。

幹事 原則として各卒業年度それぞれ2名を正会員より選出する(薬学科、製薬学科各1名を原則とする)。

監査役2名 総会の承認を得るものとする。
(役員の種類)

第8条 各役員の会務は次の通りとする。

1. 会長は本会を代表し、会務を統理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
3. 顧問は同窓会の運営に対して助言する。
4. 幹事は幹事会を組織し、本会の運営を統轄し、管理する。
5. 常任幹事は常任幹事会を組織し、常時本会の運営及び事務を執行・処理する。
6. 監査役は常任幹事会に出席し、会計その他を監査する。

(役員任期)

第9条 役員任期は4年とし、再任を妨げない。但し、補欠役員任期は前任者の残存期間とする。

第4章 会議

(会議の種類)

第10条 本会の会議は、総会、常任幹事会及び幹事会とする。

(総会)

第11条 総会は次の場合に開かれる。

1. 定期総会毎年1回会長が招集する。
2. 臨時総会幹事会が必要と認めるとき及び全会員数の2割に当たる正会員が特に開催を請求したとき。

(幹事会)

第12条 幹事会は、会長、副会長及び幹事で構成し、必要に応じて会長がこれを招集する。

(常任幹事会)

第13条 常任幹事会は、会長、副会長及び常任幹事で構成し、必要に応じて会長がこれを招集する。なお、本会は役員数の2/3以上の出席をもって成立する。

(会議の議決)

第14条 総会、幹事会及び常任幹事会の議決は、出席正会員の過半数の同意をもって成立する。可否同数のときは議長が決するところによる。

(幹事会及び総会の議長・副議長)

第15条 幹事会及び総会の議長・副議長は幹事会および総会においてそれぞれ正会員中

より選出される。
(常任幹事会の議長)
第16条 常任幹事会の議長は、会長がこれにあたる。

(総会の承認事項)
第17条 次の事項は総会の承認を得なければならない。

1. 会長・副会長・監査役の選任
2. 事業計画及び収支予算
3. 事業報告及び収支決算
4. その他常任幹事会が必要と認めた事項

(会議の記録)

第17条の2 議長は各会議における経過について、これを記録しなければならない。

第5章 庶務及び会計

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(経費)

第19条 本会の経費は原則として会費及び寄付金、その他をもってこれにあてる。

(会費)

第20条 会費は、年会費2,000円とする。終身会員の会費(終身会費)は50,000円とする。ただし、特別会員に会費納入の義務はない。

なお、会員の一親等親族および会員の配偶者の年会費及び終身会員の会費は1/2とする。

第6章 会則の改正

(会則の改正)

第21条 本会則の改正は、該当年度の年会費もしくは終身会費を納入している会員がこれを必要と認めた場合、改正案を幹事会に提出し承認を経て総会にはかることができる。この場合、総会への提案者は幹事会とする。

付 則

(平成15年7月26日改正)

会則は平成15年7月26日より施行する。

(平成16年7月24日改正)

会則は平成16年7月24日より施行する。

別表 平成13年7月28日の総会の決定により、平成13年7月29日から平成17年7月の総会まで、以下のものを役員とする。

役 職 名	氏 名	
会 長	黒崎 浩巳(1期)	
副 会 長	寺山 博行(7期)	石井 甲一(11期)
	上村 直樹(23期)	石坂 隆史(院期)
常任幹事	小原 侃(1期)	宇留野 強(4期)
	武尾 勝司(9期)	安達 順一(11期)
	岡宮 智子(11期、会計)	
	金澤 幸江(12期)	渡辺 宏二(18期)
	小松 俊哉(20期)	安藤 秀一(22期)
	伊集院一成(25期)	澤井 美里(40期)
監 査 役	草本 記子(19期)	高井 幸恵(22期)



東京理科大学薬学部での35年間で振り返って



浅部 喜博

この3月末日をもって薬学部を定年により退職いたしました。昭和45年4月に滝谷先生の助手として着任してから35年の月日が流れました。ほんの一瞬のように思えてなりません。3月には、最終講義の機会を与えていただき、薬学部で私が係わり合った次の事柄について披露させていただきますが、ここにその概略を申し述べます。即ち、先ず質量分析室について、二つ目は総合講義の電算化について、三つ目は永らく講義してきた日本薬局方の最近の変遷について、終わりに嬉しい思い出の一つ。

薬学部質量分析室との係わり合いは、昭和47年10月に「日立7M形二重収束質量分析計」が薬学部設置され、山川先生が責任者となり、オペレーターが利岡さんで質量分析室が開設されましたが、翌年から、225型赤外分光光度計の管理をしていた私が両装置の保守・管理を引き受けることで始まりました。日立7M機は、その後、「日立M80形二重収束GC質量分析計」(昭和56年3月)に更新され、昭和60年からは機器センターへの改組があり、機器センター・第一種設備となりました。その後、「日本電子(JMS-SX102LC-質量分析計」(平成5年)が増設され、また、学内LAN利用によるマススペクトルデータの転送システムやオンラインによる予約申し込みのシステムを構築しました。オペレーターも初代の利岡さんから、6代目の長谷川さんと受け継がれ、現在は長谷川さんが二台の装置を動かして測定依頼に応じています。日立7M機から五台の大型装置を32年間稼働してきましたが、現在までに約5万件(ミリマスがその中の約28%)の良質なデータを低価格で、しかも迅速に利用者に提供してきました。これは歴代のオペレーターの皆さんに拠るものであり、大変感謝しております。

次に、薬学総合講義の電算機化については、昭和55年4月に総合講義等委員会の下に小委員会を

作りFortranⅣを用いる成績処理のソフトを開発しました。昭和55年度(7000番台)は未だ選択科目であったため模擬試験として扱いましたが、翌年度(8000番台)から必修科目となり、昭和58年度(80000番台)からは専用の総合講義用マークカード(学籍番号5桁)を使用し始めました。その後、この科目の成績処理は事務室で行うことになりました。

さて、当時、定量分析学を長谷川先生から引き継いでいましたが、カリキュラム改訂により薬局方概論が必須科目となったために、この科目も昭和59年度から私が担当することになりました。当時は、第十改正(昭和56年4月施行)でしたが、その後、5年毎の改正並びにその間での一部改正を重ね、20年を経て現行は、第十四改正・第一追補(平成15年1月施行;今年の1月に第二追補が施行)に至っております。改正毎に改正点をチェックし講義内容を修正するのにかなり難儀した事を思い出します。

終わりに、I部柔道部の顧問の時に、「第42回全日本理工科学生柔道優勝大会(平成13年6月24日開催)」及び「第43回同・優勝大会(平成14年6月30日開催)」において、第1回大会以来念願となっていた初優勝とそれに続く二連覇の偉業がなされました。その立役者となったのが、二年連続して優秀選手に選ばれた製薬学科の大島康宏君(この3月卒業;3月に平成16年度の学生部長賞・個人賞受賞)であり、この薬学生の快挙には柔道部OB一同大喝采を送ったものでした。誠に嬉しい思い出の一つとなっています。

今、薬学部は六年制に向けて大変大事な時期を迎えています。薬学部の益々の発展を祈る次第です。

在職35年の間に薬学部OB並びに多くの教職員の方々にご支援を頂きました。この場をお借りして篤くお礼申し上げます。

着任に当たって

青山 隆夫



昨年の10月に薬学部に立ち上がりました新規の研究室を担当しております教員の青山隆夫と申します。かつては高木敬一郎先生、その後福室憲治先生が担当されていましたが、その名称が復活したことになります。

私は、理科大薬学部第17回卒（昭和55年）で、卒業研究の際は小石真純研究室に所属していました。今でこそ薬学部のすべてが野田地区に移りましたが、当時も一部の研究室は野田にあり、私は野田の方に通学しておりました。卒業後、東京大学医学部附属病院薬剤部の研修生となり、昭和56年から薬剤部に薬剤師として勤務しました。同期の多くは、進学するか企業に就職して、薬剤師の職に就く者は少なかったかと思います。薬学部での教育も薬剤師を特に意識したものではなかったため、私自身も薬剤師というものが何なのかもよくわからず薬剤師になった次第です。幸いにも、大学病院という特殊でオールラウンドな環境でしたので、薬剤師の実務、教育、研究に従事することができ、この度、25年ぶりに母校に戻り、薬学教育に携わることになりました。高木先生、福室先生も東大病院薬剤部から理科大に移られており、これも何かの縁なのではとっております。

さて、昨年5月の学校教育法の改正により、薬学6年制が平成18年4月入学の学生からスタートすることになりました。これに伴い各薬科大学、薬学部はその体制を確立するために準備に取り掛かっており、理科大も、理科大独自の特徴を打ち出そうと、来年、その6年後、さらに未来を見据えて準備を進めております。薬学6年制とは、もう御存知かと思いますが、「臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とする」と学校教育法第55条第2項にあるように、薬剤および疾患疾病の知識や調剤技術はもとより、倫理観、コミュニケーション能力を備えた、医療に貢献できる真の医療人としての薬剤師養成を目指すものです。そのために、4年次までは、基礎薬学に加

え、医療・臨床薬学の講義と事前実習を行い、医学部と同様に5年次に進む前に共用試験（CBT、OSCE）が実施され、十分な学力、実技が身に付いたことが確認された者が約半年間の臨床実習（病院、保険薬局）を実施し、6年次修了後に薬剤師国家試験の受験資格を得ることができるシステムです。

6年制では、医療に貢献できる、使える薬剤師を養成することが重要となりますので、実務に長年従事してきました私としましては、理科大での薬剤師教育を充実させることに心血を注ぎたいと考えております。また、医療に関連した研究も立ち上げたいと思います。しかしながら、5年次の臨床実習については自前の病院、薬局を持たない理科大では、受入施設の確保が問題となっています。医療現場においては学生を受け入れることに関して非常に厳しい状況であることは十分に理解してはいますが、理科大の6年制とこれからの医療を担う質の高い使える薬剤師の養成のため、理科大薬学部OBの先生方には、是非、理科大の学生を含めた多くの学生の受け入れをお願いしたいと思っております。理科大では、基本的なことはもとより、目的意識を持った、問題解決能力の高い薬剤師を社会に送り出したいと考えています。また、病院や薬局との共同研究や卒後の生涯教育などについても今後、発展させたいと考えておりますので、薬学教育への要望なども是非お聞かせ願えればと思います。よろしくお願いいたします。



ホームページのリニューアル



東京理科大学薬学部同窓会のホームページは、昨年度にリニューアルしました。

メニューには

「同窓会・催しのお知らせ」(総会等の案内)

「同窓生の広場」(同窓生に役立つ各種案内

例：実践社会薬学講座の案内 医薬品機構の求人案内

「同窓会報」(ふなかわらの記事)

「同窓会について」(同窓会の主な活動内容)

「会長挨拶」

「同窓会会則」

「同窓会組織」(運営組織と幹事の名簿)

「同窓会事務局」(事務局の住所・連絡先や問合せ)

があります。今後、内容を充実して同窓生にとって価値のあるホームページとなるよう担当者一同がんばっております。ご期待ください。

東京理科大学薬学部同窓会のホームページへのアクセスはYahooや検索サイトの「Google」で「東京理科大学薬学部同窓会」で検索するとトップで表示されます。



平成17年度「実践社会薬学」の開講

「実践社会薬学」は10年目となり、本年度は5月14日よりスタートしました。受講対象は2年生以上で、本年度最初の出席者数は130余名と両学科2年生の約73%に相当します。今年度はカリキュラムが変更されてから2年目にあたり、現カリキュラムでは一部の実習が選択科目となり、その実習の一つ「医療薬学実習」の履修には3つの選択科目、この「実践社会薬学」、「コミュニケーション論」及び「薬学情報科学」のいずれか1つの単位を取得することが必要となりました。医療薬学実習は薬剤師を目指す学生にとって不可欠な

科目です。この講座は他薬科大学、薬学部からもユニークさが注目されており、現在も時折、薬系雑誌、新聞の取材にきています。既にどこかでこの科目の紹介記事をご覧になっているかも知れません。この会報「ふなかわら」が皆様のお手元に届くまでに授業の日程が相当進んでしまっているかと思いますが、同窓生の見学は問題ありませんので、是非一度ご覧いただけたらと思います。前期土曜日の13時から16時10分が講義の時間です。なお、今年度の最終講義は6月25日です。

平成17年度 実践社会薬学講座の案内

	月日	時間 (13:00~16:10)	講師名	内 容
行政	5月14日	13:00~13:10	黒崎 浩巳	実践社会薬学と同窓会について
		13:10~13:50	井上 祥子	薬剤師で公務員って何ですか？(東京都の薬事監視)
		13:50~14:20	高橋 恵理子	薬剤師で公務員って何ですか？(さいたま市の食品衛生監視)
		14:20~15:00	磯部 総一郎	薬剤師で公務員って何ですか？(厚生労働省)
		15:10~15:55	小林 寧	医療を支える薬剤師会
薬局 病院	5月21日	15:55~16:10	上村 直樹	薬局・病院の中身とは
		13:00~13:45	馬場 晴美	薬剤師の一日
		13:45~14:30	伊集院 一成	薬局経営と大学講師
		14:40~15:25	上羽 裕子	足を使う訪問薬剤師
	5月28日	15:25~16:10	谷口 淳二	薬局で必要な勉強とは
		13:00~13:45	金澤 幸江	地域に密着する薬剤師
		13:45~14:30	伊藤 陽子	病院薬剤師から薬学生への強い希望
	6月4日	14:40~15:25	井上 美穂	糖尿病領域??安全管理??
		15:25~16:10	鎌田 泉	薬剤師から見た医療事故
		13:00~14:00	小茂田 昌代	これからの臨床薬剤師像
企業	6月11日	14:00~14:45	田村 智英子	遺伝カウンセラーへの道
		14:55~16:10	〔座長〕上村 直樹	新人薬剤師との座談会 薬局、病院勤務者、公務員、各々若干名 高橋 恵理子、澤井 美里、大久保 有香、 岡田 綾佳、松尾 香織、市倉 大輔
		13:00~13:20	安達 順一	最近の製薬企業と薬剤師
		13:20~14:30	吉田 雅人	新薬を生み出す開発業務
		14:40~15:50	高井 幸恵	医薬品の安全性の管理
	6月18日	15:50~16:00		質問票記入
		16:00~16:10		質疑応答
		13:00~14:10	川庄 尚	身近な医薬品 OTCを知ろう
		14:10~15:10	〔座長〕小松 俊哉	ロール・プレイ ①営業の現場から 〃 ②製品開発会議
		15:10~15:20		質問票記入
	6月25日	15:30~16:10		質疑応答
		13:00~14:10	松井 信智	薬の伝道師・MRの仕事とは
		14:20~15:30	小松 俊哉	薬を創る！-新薬を創り出す創薬の仕事-
		15:30~15:40		アンケート記入
		15:40~15:50		質問票記入
15:50~16:10		質疑応答		
全体		16:30~18:00	全員	学部長挨拶 懇談会

薬学部同窓会 2005年度 広島地区交流会

本年10月9日(日)～10日(月・祭日)に広島県にて第38回日本薬剤師会学術大会が開催されます。同窓会では、この機会を利用し、会員相互の一層の親睦を期待して、「第1回交流会」を下記要領

にて開催することに致しました。つきましては、学術大会に参加される方々、広島近郊に在住の方々にはお誘い合わせの上、お申し込み下さいますようお願い申し上げます。

記

期 日 平成17年10月9日(日) 20:00～22:00

会 場 ホテルグランヴィア広島
広島市南区松原町1-5 (JR広島駅新幹線口)
Phone: 082-262-1111 Fax: 082-262-4050

会 費 8,000円程度 (予定)
納入方法についてはお申し込みの方にご連絡申し上げます。

申込み方法 平成17年8月30日(火)までに、郵便、e-mailにより下記連絡先までお申し込み下さい。なお、申込みの際には、氏名(旧姓)、卒業年(****年03月)、住所、Tel番号を、またお持ちであればFax番号メールアドレスをお書き下さい。また、必ず「同窓会交流会参加申込み」とお書き下さい。

ご 注 意 詳細は同窓会ホームページに掲載し、内容が確定する度に修正して参ります。常時ご確認下さい。

以 上

〔連絡先〕東京理科大学薬学部 石坂 隆史
〒278-8510 千葉県野田市山崎2641
e-mail: ishizaka@rs.noda.tus.ac.jp

〔同窓会ホームページ〕<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>



薬学部同窓会と個人情報保護法

皆様ご存じのように、平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これにより非営利組織ではありますが、薬学部同窓会も5,000人以上の個人情報を個人情報データベースとして保有することから個人情報取扱事業者に該当することになります。したがって、以後は以下の各項にしたがって皆様の個人情報を取り扱ってまいります。

平成17年5月25日

〔薬学部同窓会の義務〕

東京理科大学薬学部同窓会（以下「同窓会」という。）は、個人情報保護法の規定により、個人情報の取り扱いについて、次のような義務を負っています。

- ① 個人情報の利用目的を明確にして、公表しなければならない。
- ② 本人の同意なしに、利用目的以外の目的で個人情報を取り扱ってはならない。
- ③ 不正な手段で個人情報を取り扱ってはならない。
- ④ 利用目的を達成するために個人情報を常に正確且つ最新の内容を保つよう努めなければならない。

〔個人情報の利用目的〕

「同窓会」は、会員個人を識別するための基本情報として、会員の氏名・住所・電話番号・メールアドレスなどの個人情報を以下の目的で利用いたします。

- ① 同窓会が主催する総会、懇親会、各種交流会の開催、会費の納入依頼、会員情報の収集など、同窓会活動に関する各種の案内、依頼
- ② 同窓会活動に関係する会員へのアンケート調査
- ③ 会員相互の交流を促すための名簿作成と会員への配布
- ④ 会員が主催する同期会、研究室の同窓会など会員を対象とする集会、交流会の案内
- ⑤ 東京理科大学（大学および法人）、理窓会、および同薬学部による会員の卒業生たる資格、権利を維持、保護する目的での利用
- ⑥ 東京理科大学（大学および法人）、理窓会、お

よび同薬学部が主催する行事の案内および依頼

〔個人情報の収集〕

同窓会は法令に基づき、適正かつ公正な手段で会員の個人情報を収集いたします。

- ① 同窓会から在学生および会員に個人情報の提供を依頼した時
- ② 在学生および会員一部の個人情報を保有する薬学部内の組織、例えば研究室などに、その組織に関係する会員の個人情報の提供を依頼した時
- ③ 会員が主催する同期会、交流会などの主催者もしくはその協力者に、その会に関係する会員の個人情報の提供を依頼した時
- ④ 会員からの問い合わせに同窓会が対応する時
- ⑤ 会員が同窓会からのアンケートに協力した時

〔個人情報の提供〕

同窓会が会員から収集した個人情報は、下記のいずれかに該当する場合を除き、第三者に提供、開示などを行うことはありません。

- ① 法令などに基づく場合
- ② 会員および第三者の生命、身体、財産など公共の利益または会員の利益のため必要であると判断した場合
- ③ 国の機関、地方自治体、およびその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合
- ④ 東京理科大学（大学および法人）、理窓会、および薬学部に対し、会員に明示した利用目的の達成に必要な範囲で提供する場合
この場合に提供する個人データは「氏名」、「住所」、「電話番号」とする。
- ⑤ 例えば研究室など薬学部内組織の担当者、同窓会会員が、研究室の同窓会、同期会、交流会などの開催を計画するとき、それらの会の開催担当者に対し、会員に明示した利用目的の達成に必要な範囲で提供する場合
この場合に提供する個人データは「氏名」、「住所」、「電話番号」とする。

- ⑥ 会員の事前の承認、同意を得た場合
- ⑦ 同窓会が活動を停止し、新たに同じ目的で作成された組織が個人情報を引き継ぐ場合

〔個人情報の外部委託〕

同窓会が会員から収集した個人情報は、会員名簿の作成時など、その取扱を外部の業者に委託することがありますが、その際には当該業者との間で、個人情報に関する「機密保持契約」を締結し、個人情報の漏洩などが起こらないように努めることにしています。また、会員に明示した利用目的の達成に必要な範囲で個人情報の取り扱いを委託する場合を除き委託をすることはありません。

〔個人情報の開示・訂正・削除〕

- ① 同窓会は会員本人、または本人が認めた代理人の申し出により、保有している会員の個人情報を通知いたします。
ただし、下記のいずれかに該当する場合は、会員に個人情報を通知することはできません。
 - 1) 会員および第三者の権利利益を害するおそれがある時
 - 2) 同窓会の業務運営に著しい支障をきたすおそれのある時
 - 3) 他の法令に違反するおそれがある時、など。
- ② 同窓会は、会員に通知した個人情報に誤りがあった場合は、速やかに訂正、削除をおこないます。

ただし、同窓会の運営上最低限必要な個人情報として、「氏名」、「旧姓」、「卒業年度（卒業年月日）」、「性別」、「卒業学科」、「卒研時所属研究室」は削除できません。

- ③ 会員からの個人情報通知依頼にあたり、会員本人を証明するために、会員のみが知る同窓会、東京理科大学薬学部に関わる事項を質問する、公的な身分証明書（運転免許証、保険証、パスポート、住民票など）の写しを請求するなどの方法を必要とします。

〔個人情報の利用・提供中止〕

会員から自身の個人情報の利用または提供中止の請求があった場合は、請求者が本人である事を確認した上で、同窓会での利用、第三者への提供を速やかに中止します。ただし、同窓会の運営上最低限必要な個人情報は削除できません。

〔問い合わせ先〕

問い合わせ先は同窓会事務局と致します。ただし、常時事務担当者は在席していませんので、ご連絡に際しては、E-mailもしくはFAXをご利用下さい。また、ご連絡への対応も若干時間を要する場合がありますことをご理解下さい。

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641
東京理科大学薬学部同窓会 事務局
FAX：04-7121-3656
E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp



同窓会名簿発行に当たってのお願い

同窓会名簿は5年に一度住所等を最新データに変更して発行しており、今年が発行の年に当たります。住所及び勤務先に変更のある方は、同封の調査カードに記入しご返送願います。

今回の同窓会名簿は、作成費用を抑え、同窓会の経費負担を最小限に留め、昨今のPCの普及に従い、従来の冊子（からCD-ROM版といたしました。又、今年4月から「個人情報保護法」が施行されましたので、この法に抵触しないように配慮しております。

購入方法も事前予約方法とし、購入価格は同窓会の終身会員及び年次の年会費を納入なさっている「正会員」は3,000円、年会費の未納入の「会員」は5,000円と若干の差を設けさせていただきました。

CD-ROM版で作成費用を抑えて、同窓会予算からの支出を最小限にするよう努力しておりますが、更に支出を少なくするため名簿作成賛助金（1口 2,000円で何口でも可）を募っております。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

東京理科大学薬学部同窓会幹事 一覧 (2005年3月現在)

1 期	小原 侃	黒崎 浩巳	山口	堅志郎			
2 期	山口 稽子						
3 期	鈴木 政雄	中村 洋司					
4 期	池田 幸雄	宇留野 強	柏木 敬子				
5 期	山川 洋志	湯田 康勝					
6 期	植木清一郎	藤井 幸子					
7 期	石井 賢二	寺山 博行					
8 期	松岡 隆	奥村 成太					
9 期	澤地 孝	武尾 勝司					
10 期	中島 敏夫	原 しげ子	石井 啓子				
11 期	安達 順一	石井 甲一	小暮 渉	岡宮 智子	富秋 英志		
	向井 呈一						
12 期	新井 準子	金澤 幸江					
13 期	濱野 朋子	波田野佐和子					
14 期	田村 哲彦						
15 期	菅原 伸治						
16 期	遠藤 健治	関口 真紀子	小池 勝夫	田畑 新	今 和枝	渡部 敏行	
17 期	青山 隆夫						
18 期	渡辺 宏二						
20 期	小松 俊哉						
21 期	飯野 直子	吉田 雅人					
22 期	安藤 秀一	磯部総一郎	小川 政彦	永井 健二	高井 幸恵		
	和田 和裕						
23 期	北嶋 晶	上村 直樹					
25 期	伊集院一成						
26 期	小林 寧	関根 靖之					
27 期	前田 真						
29 期	大瀧 充	神谷 貞浩					
30 期	内村 兼一						
31 期	高橋 未明						
32 期	佐々木正大						
37 期	浅井 将						
40 期	大久保有香	澤井 美里					
大学院	石坂 隆史						

編集後記

ゴールデンウィークは前半が初夏を思わせる天気、最後は一転して3月下旬の気温となり、体調を崩した方が多かったことと思います。毎年異常気象と言われて久しいため、このような気象が普通になるのではと心配します。

我々の身近な問題として、医療制度改革の中で、ジェネリック医薬品の利用促進を検討するとの報道がなされました。国の想定でこれにより、薬剤費が約1兆円削減されるとのこと。

一方、団塊の世代の定年は待ったなしで、目の前に来ております。私も団塊の世代の一員として、定年後の生活設計の基本である年金には強い関心を持っています。

国家の財政が健全になれば、年金もおぼつきません。

一日も早く、国債の発行に頼らない財政になってもらいたいものです。